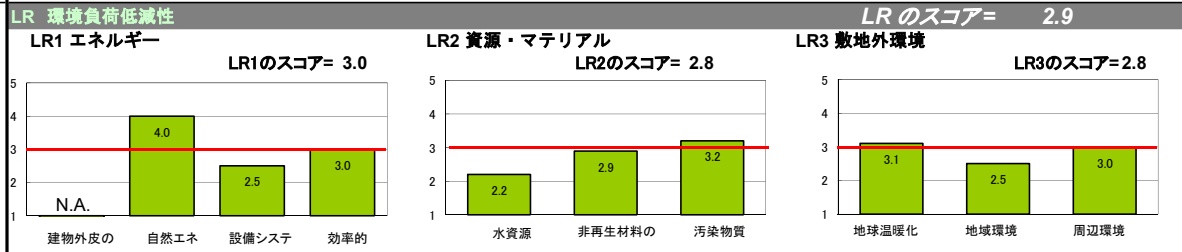
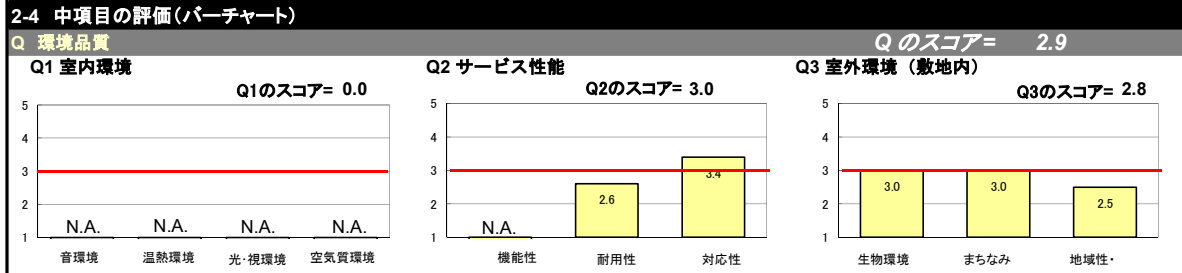
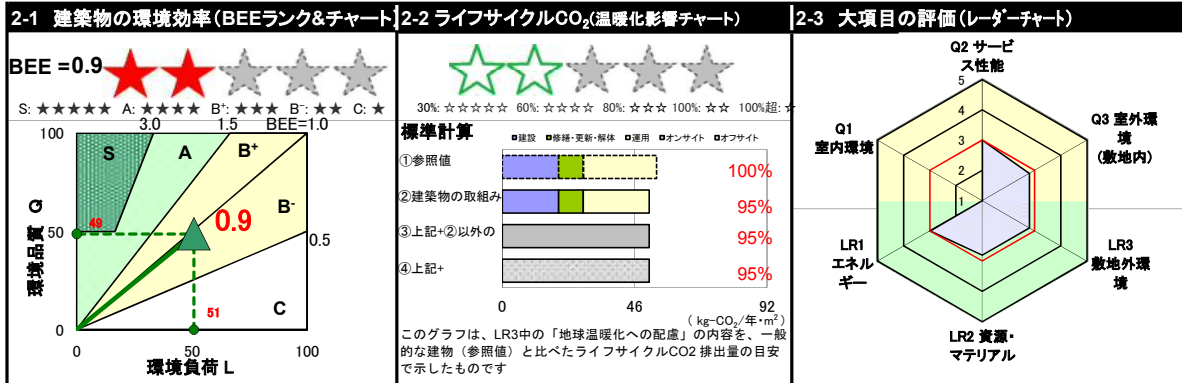


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	アイデン株式会社 本社工場 ミリ波	階数	地上2階
建設地	愛知県稲沢市祖父江町山崎塩屋1番	構造	S造
用途地域	指定なし(市街化調整区域)	平均居住人員	30人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,085時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年3月 予定	評価の実施日	2017年7月20日
敷地面積	12,132 m ²	作成者	山田猛
建築面積	7,279 m ²	確認日	2017年7月20日
延床面積	8,415 m ²	確認者	山田猛



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.1</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">50.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.9</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

3 対応性・更新性				3.4	0.48			-	3.4
3.1 空間のゆとり		②	1階部分の階高4.0m以上 通路巾3.0以上	4.6	0.31			-	
1 階高のゆとり				5.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ				4.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.22			-			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57			-	2.8
1 生物環境の保全と創出		独自③		3.0	0.30			-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40			-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50			-	
3.2 敷地内温暖環境の向上				3.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性								-	2.9
LR1 エネルギー				-	0.40			-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	0.30			-	
2 自然エネルギー利用			ハイサイドライト	4.0	0.28			-	4.0
3 設備システムの高効率化				2.5	0.43			-	2.5
4 効率的運用				3.0	0.29			-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00			-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	
集合住宅の評価				-	-			-	
4.1 モニタリング				-	-			-	
4.2 運用管理体制				-	-			-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30			-	2.8
1 水資源保護				2.2	0.15			-	2.2
1.1 節水				1.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.9	0.63			-	2.9
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.20			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	再生砕石	3.0	0.20			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自		3.0	0.24			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.2	0.22			-	3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.3	0.68			-	
1 消火剤			不活性ガス消火剤使用	4.0	0.33			-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.33			-	
3 冷媒				3.0	0.33			-	
LR3 敷地外環境				-	0.30			-	2.8
1 地球温暖化への配慮		①	広い緑地確保	3.1	0.33			-	3.1
2 地域環境への配慮				2.5	0.33			-	2.5
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	
2.2 温暖環境悪化の改善				2.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制			合併処理浄化槽 BOD20 に更新	4.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自		3.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33			-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	0.33			-	
2 振動		独自		3.0	0.33			-	
3 悪臭				3.0	0.33			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制				3.0	-			-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

アイデン株式会社 本社工場 ミリ波工場

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.1
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.1	0.10	
② 資源の有効活用				2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	2.6	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.17	外構緑化:50%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 アイデン株式会社 本社工

計画上の配慮事項	
総合	生産設備に必要な広さ、高さの建築とし、必要な諸室、関連設備を効率よく配列した
Q1 室内環境	断熱性の高い屋根・外壁材を採用。最高と換気を兼ねるトップライトを設けた
Q2 サービス性能	生産施設部分は高い天井とし、廻りに広い通路を設け、執務室、備品置場等はゆとりある広さとした
Q3 室外環境(敷地内)	建物周辺、敷地境界部分に緑地を設けた
LR1 エネルギー	省エネ対応の設備機器を採用
LR2 資源・マテリアル	不活性ガス消火剤を使用
LR3 敷地外環境	雨水排水放流先が土地改良区の排水路にて雨水流出抑制とした
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。